

3 月 16 日、通明小学校を立派に卒業しました。「卒業おめでとう！」



## カンボジア事件の遺族へのお見舞金にご賛同ください

理事長 藤本光世

愛育園の「おもひやり」に円福友の会のお願いをすることをお許しください。『圓福』が印刷に回ってしまい、標記お願いが間に合わなかったのです。

アンコールワットで、日本人によるカンボジア人強盗殺人事件が起きてしまいました。たいへん悲しく心が痛みます。

円福友の会は内戦による難民キャンプの時代から、カンボジア支援を行ってきました。1994 年には、円福寺愛育園創設者で円福友の会を創設した藤本幸邦会長が、内戦がまだ収まっていないカンボジアに入り、三つの小学校に校舎を建設しました。

私は 2016 年に、建設後 20 年でボロボロになってしまった二つの校舎を取り壊して新築しました。その状況は、『圓福』で皆さまにお知らせしたとおりです。そして今年は長野県倫理法人会の力をお借りして、もう一校の校舎も建設しようと思っています。

そんな折に、強盗殺人事件が起きてしまいました。カンボジアの皆さんは日本人をどう思っているでしょう。奥様と 4 人の子どもの遺族は日本人を恨んでいるでしょうね。日本人への信頼が一気に崩れた思いがしました。私は、日本人としてご遺族をお見舞いし、慰めなければならないという強い気持ちが湧きました。

幸い、カンボジアには円福友の会コーディネーターのキムホンさんがいます。円福友の会は 2 月に 2 週間の日程でキムさん家族を招聘することができました。キムさんに、お見舞いの気持ちを連絡すると、アンコールタイガー（オーナーは日本人でご遺族に見舞金を寄付しています）のサッカーチームに友達があり、その関係で奥さんの電話番号を知っているといます。家もわかるといいます。

それで、円福友の会から早速 1,000 ドルのお見舞金をキムさんに送金し、ご遺族に届けていただくことに致しました。円福友の会では、更に、会員や一般の皆さんの募金を募りたいと思います。皆さまのご賛同をお願いいたします。ご賛同いただける方は『圓福』の最終ページに綴じ込んである振込用紙を使用して、お見舞金をお送りください。

私は、5 月 14 日から 17 日までの日程で、これまで建てた 2 校の視察と、新たな校舎建設の打合せのために長野県倫理法人会の皆さまとカンボジアを訪問します。16 日にはキムさんの農場も視察予定です。キムさんの農場はシェムリアップの近くです。旅行者と連絡をとると、私たちが宿泊するホテルと、ご遺族のお宅は車で 20 分ほどでした。みんなで訪問できることが分かりました。

16 日にご遺族を訪問し、弔意を申し上げ、皆さまからお預かりしたお見舞金を手渡したいと思います。お経をよんでお亡くなりになった方の菩提を弔います。私たちの訪問に、きっとご遺族の皆さまの心は癒されるのではないのでしょうか。そして、カンボジアの人々の日本人に対する怒りも和らぐのではないのでしょうか。日本とカンボジアの友好関係のために頑張りたいと思います。そして円福友の会のカンボジア支援を一層進めたいと思います。皆さまよろしく願いいたします。

## 新年度

いよいよ新しい年度です。新しい学校へ進学する子、進級する子、それぞれ新しいことが待っています。希望に充ち溢れる、いい時期です。

愛育園も、新しい職員を迎え、担当も新しく決まって、子どもたちの部屋替えもあり、すべてが新鮮です。この新鮮さを保って欲しいと願います。

3 月 29 日に茹でたての手打ち戸隠蕎麦のお誕生日メニューを御馳走していただきました。宮澤先生、調理の先生、皆さんありがとうございました。とっても美味しかったです。私は宮澤先生のお蕎麦をいただくようになって、お蕎麦が好きになりました。

お誕生日には、子どもたちは夢を話してくれます。私もと言われて、「愛育園のすべての子どもを一人残らず幸せにすること」と話しました。新しい年度が始まり、職員と子どもたちが力を合わせて毎日の生活（日課と行事）の一つ一つの質を向上して、職員も子どもたちも心を満たし、力をつけて欲しいと願っています。それが幸せへの第一歩ですから。



新年度を迎えて

園長 青谷幸治

平成 31 年度がスタートしました。今年度も子どもの自立に力を入れて職員一同取り組んでいきたいと思ひます。

3 月、2 名の卒園生を立派に送り出すことができました。一人の男子は、1 歳半で入所し 16 年半を愛育園で過ごしてきました。愛育園の混乱の時代を生き、施設の良い所、悪い所を知り尽くした子でした。力のピラミッドの中で、上級生の後ろをついて回り何とか自分の居場所を求めたり、認められるために何でも言うことを聞いてしまう毎日でした。しかし、高校生になるころには施設全体が落ち着き上級生が模範になる生活を送り、高校生を大人として関わられるようになりました。この男子もラグビーに汗を流し、身体を鍛え、進路は海上自衛隊を選び、社会に旅立っていきました。旅立ちの日にこの男子に涙は全くありませんでした。長く一緒に過ごしましたが、複雑な気持ちになりました。何か一つの時代が終わったといった感じがしました。愛育園の養育力が高まり、子どもの成長や将来に対する希望や夢をもてるようになり、生活環境が変わってきました。愛育園で生活することに感謝し、誇りを持てる子どもが増えてきました。そんなことをとても感じて卒園した、もう一人の女子は美大に行くことを目標に高校生活をはじめ何でも一生懸命取り組み頑張っていました。その一方で、自分のことが好きになれず、ずっと悩んでいました。その頑張りすぎが本人の気持ちの糸が切れてしまい、あんなことに……。このまま学校に通うどころか、生きていけるの



かとても心配でした。しかし高校、愛育園、児童相談所などいろんな方の支援を受け、美大に行く夢は叶いませんでしたが、本人が好きなお菓子に携わる仕事を希望し、洋菓子店への就職内定し、自動車の免許を取得、高校も無事卒業し、約 4 年間生活した愛育園を巣立っていきました。彼女は卒園式数日前に

2 人で話をしたときに本人から「先生、私は自分のことが嫌いだったけど卒園する前に自分のことが少し好きになりました。愛育園に来てよかった。愛育園でよかった。」とあれほど自分と向き合うことを嫌い、拒んできた子が「少し好きになれた」。これからがスタートだなと思ひました。4 年間ジェットコースターのような毎日でしたが、裏切らず関わって来てよかった。

養育環境が大きく変化していく中で生きてきた 2 人でしたが、どんな状況になっても愛育園で過ごした日々を忘れず、誇りに社会に貢献することを願っています。

そして今年度も子どもたちと色々な関わりがあり、色々なドラマがあり、よい思い出を作って愛育園を巣立ち、そして元気な姿で戻ってこれる、そんな子どもたちになるように養育していきたいと思ひます。当園役員の皆様、児童相談所の皆様、西横田区の皆様、当園を支援していただいている皆様に感謝申し上げます。ありがとうございました。また今年度もご支援よろしくお願ひします。

卒園式

主任保育士 石崎早織

3 月 23 日に今年度卒園する 2 名の卒園式が無事行うことができました。お忙しい中たくさんの来賓の皆様にお越しいただき、本当にありがとうございました。

さて、今年度卒園した児童の 1 名 S さんはまごころホームで 4 年間一緒に生活をしてきました。入所してきたばかりの頃はすごくおっとりしている子だな、と思ひていましたが、ちょうど受験の年に入所してきたので、志望校を決めるところから始まり、今まで長時間勉強をした経験もない中受験勉強がスタートしたのを覚えています。あまりにも受験勉強が大変だったのもあり、途中で心が折れてしまうのではないかと、心配しましたが、最後まで全力でやり切り、無事志望校に合格することができ、本当はこの子はすごく芯の強い子なんだと知ることができました。高校に入学後、新しい環境に馴染むのに少し時間はかかりましたが、大好きな絵を描くため美術部に入部し多くの友人に恵まれました。高校生活の中でいろんなことに悩み、立ち止まったこともあつ





たけど、それでももう一度前を向いて頑張れたのは S さんの強さと、たくさんの方々に支えていただいたおかげだと思います。無事に高校を卒業でき、本当に本当に良かったです。

S さんは 4 月から社会に出ていきます。不安もたくさんあると思いますが、卒園式に来てくださった方や、愛育園のみんなはいつでの S さんを応援していることを忘れず、これからも頑張っしてほしいと思います。

また今年度からアフターケアにも力を入れてきました。卒園生と定期的に会うことで、生活状況や仕事の状況、悩んでいることなどもわかり、相談に乗りやすくなりました。また卒園生も次の面会を楽しみに待ってくれるようにもなりました。こういった関係を今後も継続していき、卒園生がもっともっと社会で活躍できるようにサポートしていきたいと思っています。

#### 平成 30 年度 卒園式



あおぞらホーム長 富沢正樹

3 月 23 日、卒園式が行われました。

今年は、男子 1 名、女子 1 名が卒園していきました。高校 3 年生の A 君は 2 歳になる前から愛育園にきて、16 年もの歳月を愛育園で過ごしてきました。高校を卒業し、4 月からは海上自衛隊に入隊しています。

私は、そんな A 君を小学 5 年生の時から 7 年間担当をしてきました。小・中・高と、何度も大き

な問題に直面してきましたが、その度、何とか乗り越えてきました。

A 君は前向きな気持ちになれず、自暴自棄な行動をしたり、塞ぎ込んでしまう事もたくさんありました。高校 2 年生の頃からは少し気持ちが上向いていましたが、最後の最後まで前向きな気持ちになり切ったかという、そうではなかったと思います。

私は、その事を申し訳なく思う気持ちと、でも、A 君、よく頑張った。変わった。と思う気持ちで、卒園式の最後の送り出しには大泣きしてしまいました。A 君が社会人として立派に活躍する事を本当に願っています。

愛育園の行事は、児童と職員で作上げる行事です。中でも、この卒園式は最も大切な行事です。

園を卒園する子も、これからは生活していく子も、職員も、お互いを思う気持ちが無ければ絶対に

成功しません。そして、それは前日までの準備や、当日の様子に表れます。

みんなで装飾や座席の準備をして、当日も暗幕の開け閉めや、お弁当の配膳を子供たちが率先して行ってくれる姿に、毎年、感動させられます。卒園生を気持ちよく送り出してあげたい。自分も卒園する時はこんな風に送り出されたい。そんな気持ちが伝わってくるのが、愛育園の卒園式です。そして、また新たな 1 年が始まります。気持ちのこもった卒園式は、1 年間みんなが頑張っ過ごすからこそ行えます。私も、また 1 年、子供たちの為に全力を尽くしていきたいと思っています。最後となってしまいましたが、支援、応援をして頂いている皆様の力があって、立派に卒園している児童が増えている事、心から感謝しております。今後ともよろしくお願い致します。

#### お別れ夕食会

糸賀かなえ

3 月 10 日にお別れ夕食会ということで、園のみんなで外出に出かけました。お店には、お寿司や焼き肉、ラーメン、揚げ物やデザートなど様々なものがあり、バイキング形式でそれぞれ食べたいものを選んで食べました。今年、卒園の 2 人の為だけではなく、1 年頑張ったそれぞれを労う為のものだというお話がありました。子どもたちはとても楽しみにしており、お店では次々に空いたお皿が積みあがりました。みんなデザートを楽しみにしながらも、よく食べる男の子はもちろん、女の子も、幼児さんまでいろんなメニューのごはんをたくさん食べていました。デザートの種類も、果物にアイス、綿あめ、ケーキなど種類も豊富で、とても贅沢でした。中でも、綿あめは自分で作ることが出来て、わたしもぼくもやりたい、と行列ができていました。自分でざらめも選べるので、ピンクやブルー、グリーンなどそれぞれの好きな色で自分だけの綿あめを作りました。へんてこな形になってしまってもにっこり笑顔でおいしそうに食べていました。みんなお腹いっぱいになり、大満足で帰ることが出来ました。





## 少年野球 卒団式

あおぞら 倉島誠

3月31日、来年中学生になるMさんの卒団式を行いました。Mさんは約1年と少し、円福寺愛育園少年少女野球団に在籍し、日々の練習、試合に打ち込みました。私は新任で、1年間しかMさんの姿を見ることができませんでしたが、そんな私でもMさんは他の誰よりも上達したと感じます。今回、式で流すスライドショーを作っている際に、Mさんの今までを振り返りました。最初は心が弱く、泣き虫だった彼女がみるみるうちに上達し、最後にはチームの4番にまで成長した姿、チームの仲間とともに辛いこと楽しいことを最上級生として引っ張ってくれた姿、彼女の努力を知っているからこそ、「ああ、乗り越えたんだな、強くなったんだな」と感じました。Mさんはとても笑顔が素敵で、その笑顔で私自身も勇気づけられるところがありました。Mさんが「先生、どう



すれば打てるようになるの？全然ボールが捕れないよ」と言うたびに、「よし。教えてあげるから一緒に頑張ろう。Mさんならできるよ！」と交わした会話を今でも覚えています。だからこそ、Mさんがヒットを打った時、ボールをキャッチした時はとても嬉しかったです。式の最後にMさんはみんなの前でこう言いました。「野球をやれてよかった、教えてくれてありがとうございました。私は中学校ではソフトボール部に入りたいです」

と。Mさんはよく頑張ったと思います。Mさんのこれからの活躍に期待したいです。

式の中で、園長先生をはじめ、富澤監督、日詰コーチからのお言葉で皆さんが口をそろえて言っていたのが、野球ができること、支えてくれる人達がいること、練習ができる環境があること、全てが当たり前のことではないこと、感謝の気持ちを忘れてはいけないことなどを話していただきました。残った子ども達は、まだまだ伸びしろのある子達ばかりです。一人一人の力は微々たるものかもしれませんが、「全員野球」でピンチをチャンスに変えて、また今年度も子ども達と一緒に練習に取り組んでいきたいと思えます。

今年度も地域の皆様、並びに保護者の皆様、よろしくお願い申し上げます。

## 円福寺少年少女野球団卒団式

まごころホーム 橋本 雅

3月31日に円福寺少年少女野球団の卒団式が行われました。4月に入団式を行いあつという間

に1年が過ぎてしまいました。卒団式では、卒団生にみんなからお礼のメッセージや写真たてをプレゼントしました。そして、選手1人1人から頑張ったことや来年の目標を発表しました。みんな堂々と発表していて凄いなと感じました。卒園生であるMさんは、最初はできない事が多く諦めてしまっていたが練習していくうちにできるようになり凄く楽しかったと発表してくれました。Mさんは、今年入団しましたが一生懸命練習しどんなボールでもとってくれ、バッティングでは4番打者としてチームを引っ張ってくれました。

この1年で選手は凄く成長しました。挨拶や道具の片付けは率先してできるようになり、技術面ではキャッチボールが精一杯だった子も試合形式の練習もできるようになりました。来年度もさらに成長できるようチーム一丸となって頑張ります。



## 『森將軍塚古墳サイクリング』

まごころ保育士 竹内早季



先日、子どもたちと一緒に森將軍塚に行きました。小学校高学年と中高生は自転車での目的地まで行きました。私は、幼児さんと小学校低学年と車で現地まで行きました。中高生が朝のうちに作ってくれたお弁当を積んで、子どもたちはわくわくしていました。到着してから、幼児から高校生まで全員古墳まで歩いていきました。途中大人でも険しいんじゃないかというくらいの階段をひたすら登り、みんな

で声を掛けながら頂上を目指しました。私は、小学4年生のMさんと4歳のYくんと一緒に歩きました。MさんはYくんと手を繋いで、「大丈夫？」などと気を配りながら最後まで一緒に歩いてくれました。その姿を見て、いつもは職員に抱き着いて甘えているMさんもお姉さんになったなあ嬉しくなりました。頂上で景色を楽しみながら、みんなで記念撮影をしました。達成感を味わえたいい経験になったと思います。その後、下に降りて、芝生の上でお弁当を食べました。高校生が卵焼きをたくさん作ってくれており、みんなでおいしくいただきました。他の中学生たちもそれ



どれおかずづくりを手伝ってくれていたようで、そのおかげかいつも以上に美味しく感じました。小学生たちもおかわりをしており、大満足でした。昼食後は、それぞれ分かれて鬼ごっこをしたり、小川で生き物を探したりして思い思いに楽しく遊んでいます。ザリガニを見つけた子がいるとみんな大盛り上がりで「まだいるかな？」と夢中になって川の中を覗き込んでいました。普段なかなか川で生き物を探すことはできないので、私も子どもたちに影響されて

一緒になって川を覗いていました。体をたくさん動かして一日遊んだので、帰ったときにはくたくたでした。子どもたちと充実した良い思い出ができました。

#### 森將軍塚古墳サイクリング

あおぞらホーム 石龍

3月29日、森將軍塚古墳を目指し、あおぞら・まごころホーム合同でサイクリングに行ってきました。距離としては8kmの道を走りました。古墳公園に着いた所で自転車から降り、約20分程歩いて坂道を登りました。古墳は山の途中にある為、けっこう急な坂道を登りましたが、あおぞらのN君はやH君は全く疲れをみせず、ぐんぐんと登っていきました。やっと古墳にたどりつくと、長野市・千曲市を一望できる絶景が待っていました。絶景をしばらく堪能しつつ、降りるのは登った時間よりも短い時間で降りる事が出来ました。公園に戻ってかから、まごころホームと調理の先生と午前中に合同で作って頂いたお弁当を頂きました。まごころホーム中心で配る作業もして頂き、スムーズに準備が整いおいしくいただくことが出来ました。ごちそうさまをしてからは、各々分かれて公園の中で遊びました。公園には、かやぶき屋根の家がいくつかあったり、小さな川があったり、池があったりで、とても楽しい環境が整っていました。川であそんでいたR君はザリガニ採り熱中していました。結果2匹採れたみたいですが、1匹は大きすぎて逃がしてしまったと嬉しそうに話してくれました。まごころホームの子達は園長先生と笹船を作り川に流していました。本当に小さな川なので、途中笹船が止まったりすると、長い木の棒を使って動かしていました。



やっと長い冬も終わり暖かくなってきました。長い間サイクリングは行けていなかったの、み

んな嬉しかったと思います。4月以降もっと沢山外に出掛けられればと思います。

あおぞらホーム日より

あおぞらホーム 近藤誠志郎

あおぞらの児童では2人の中学生と1人の高校生が卒業式を迎えました。無事に卒業し帰ってきた3人の表情は、やり切ったという達成感と友人と別れる寂しさがあるように見えました。中学生のY君は卒業式後に高校入試の合格発表があり、無事に合格することが出来ました。これで先に高校に合格していたK君と合わせて、中学生の2人は4月から高校生になります。目前に控えた高校生活に不安や期待感があり、少しソワソワもしていますが、高校生になるのがとても楽しみな様子があります。高校生活ではたくさんの出会いや学びがあると思います。一日一日大切に過ごし、実りのある高校生活を送ってもらいたいです。また、高校3年生のA君は愛育園を卒園することになりました。卒園式での別れの言葉を発表している姿はとても堂々としており、社会人になる覚悟が出来ているように見えました。4月から始まる新生活でも堂々と胸を張って、一生懸命に頑張ってもらいたいです。

それ以外の子たちもそれぞれ学年がひとつ上がります。小学生では新6年生が3人、中学生でも新3年生になる子が3人います。最後、卒業する時を笑って迎えられるような一年にするためにも4月に最高のスタートダッシュを決めてもらいたいです。

まごころホーム日より

まごころ保育士 有賀真知

暖かい日が増え、子どもたちは外で元気に遊んでいます。

今年度も終わりに近づきました。まごころホームは今年度、小学校2名、中学校1名、高校1名が卒業しました。私が子どもたちと過ごしたのは1年と短いですが、その1年の中でも子どもたちは成長したなあと感じています。小学生は今年度の秋ごろまで、他児とトラブルになる度に大泣きしていましたが、だんだんと自分の気持ちをコントロールし、涙を流さずにトラブルを解決しているようになりました。

中学生のAさんは受験生でしたが、最初はなかなか勉強が捗らず、成績も伸び悩んでいました。しかし、志望校合格に向け塾に通いだしてからというもの、集中力が増し、解ける問題がどんどん増えていき、学習に対して前向きになりました。毎日長時間勉強に取り組み、テストの点数も少しずつ上がり、見事高校に合格することが出来ました。





高校生の S さんは卒業後に向け、車の教習に通ったり、アルバイトをしてお金を貯めたりと、忙しい日々が続きましたが、全てやり遂げることが出来ました。

4 月からそれぞれ一つ学年が上がります。1 人 1 人が 1 年間どのように過ごしていくのか目標を持ち、成長できる 1 年にしてほしいです。

調理室だより

調理員 松本 智草

三月は巣立ちの月。それぞれの思いを胸に、新しい未来へ向かって歩いてゆく若者達が数多くいると思います。

この園でも、二人の子供が晴れの卒業を迎えることとなりました。園で暮らした多くの思い出や、さまざまな場面で学んだ事を胸に、立派な社会人として元気に頑張してほしいと切に願っています。

調理員の立場からは、子供らが「あの時のあのメニューが美味しかったな。」などと折りに

触れて思い出してもらえたらとても嬉しく思います。

また三月には、ひな祭り特別メニューや子供達の誕生日メニューはもちろん、お別れ夕食会、卒業お祝いメニュー、やしょうま作り、お彼岸団子作り、理事長先生誕生日メニュー等さまざまなお祝いメニューがありました。季節や行事ごとの料理が、子供たちにとって園での楽しい思い出になるよう、これからも美味しいメニュー作りに精進してまいります。



30 年度卒業式において、高 3 男子が卒業記念製作として、歯ブラシ棚を寄贈してくれました。長工生としての腕を見せてくれました。

また 2 ページの「園舎とひまわり」の油絵は、高 3 女子が美術部で磨いた技術で卒業製作として寄贈してくれました。